

## 優秀賞

### きらきらのいのち

#### 小豆島町立苗羽小学校一年 酒井 心彩奈

わたしは、「六さいのおよめさん」という本をよみました。本には、しょうにがんといびょうきにかかったケイコちゃんがまい日をおんぼつて生きていたことが書いてありました。ケイコちゃんはまい日いたいちゆうしゃをしてかみのけがぬけてしまっても、ほいくえんにかよっていました。あるけなくなっても車いすでほいくえんにかよっていました。おかあさんは（大すきな学校に一日でもながくいけますように。）とねがっていました。ベッドからおきあがれなくなってもしゆくだいをがんばっていました。おとうさんが（もうがんばらなくていい。）とこころのちでなんどもおもっても、ケイコちゃんはおんぼりつづけました。わたしは、

ケイコちゃんはやりたいたいことを見つけて、ずつとがんばりつづけたところがすごい、こころがつよいなおもいしました。それからおとうさんとおかあさんはケイコちゃんのおおすきで、だいじだったんだとおもいます。ケイコちゃんがしたいことがぜんぶできましようにという気もちにもなつたし、がんばっているケイコちゃんがしんどそうなどころを見て、かなしい、くるしいという気もちにもなつたとおもいます。

ケイコちゃんのおとうさんは、ケイコちゃんがいなくなつてから「いのちはあたりまえにあるんじゃない。きせきなんだよ。むだないのちなんて一つもないんだよ。いのちを大せつにしよ

うね。」とたくさんの人につたえていました。おとうさんは、ケイコちゃんがいなくなつてとてもかなしいけれど、たくさんの人に「じぶんのいのちをたいせつにしてほしい。」とねがってはじめたんだとおもいます。

「いのちは大せつ」ということは、いままでおとうさんやおかあさんや先生、まわりの人からなんかいもおしえてもらつてきました。一年生になつて、どうとくのじかんにいのちについてかえることがありました。びょうきになつたあと、げん気になつたときにはじぶんのまわりがいつもとちがつてきらきらして見えたというおはなしをよみました。わたしは、しんどくなつたときにそんなふうにおもつたことはありませんでした。でも、ふつうに生かつてできることはすてきなことなんだなと気づきました。ともだちとあそべるのもどこかにおでかけできるのも、わたしがげん気にいるから。こころがたのしかったりうれしかったりするか

ら、キラキラして見えるんだとおもいました。

ほかにもあります。ハムスターの赤ちゃんがむちゆうでおかあさんのおっぱいをのんでいるところやハムスターのおかあさんが一生けんめい赤ちゃんのおせわをしているところを見ました。赤ちゃんがおかあさんのおっぱいをさがしているところがかわいかったです。おかあさんがたくさんいる赤ちゃんをくわえてはこんでいるところを見ると、じぶんの子どもをあぶないことからまもってほしいにそだてていることがわかりました。わたしのおとうさんやおかあさんもわたしが生まれてからずっと、わたしのことを一生けんめいまもってくれていたから、いまこうしてげん気で大きくなって、一年生になれたんだなあとおもいます。ともだちとあそぶのもべんきょうするのもとてもたのしいです。おかあさんのおてつだいをしたり、おとうさんとあそんだりするのもうれしいです。むずかしいこともがんばってできるようになることがふえることも、がんばっているときに

「すごいね。」とほめてくれることもうれしいです。うれしいとかたのしいとかかんじるときがいのちがキラキラしているときなのかなとおもいます。

わたしは、四月にいもうとが生まれておねえちゃんになりました。手も足も小さくて、とてもかわいいです。お母さんはよなかなにかいもおおきて、ミルクをあげていました。よなかなにきでしたら、おとうさんはやさしくトントンしていました。いもうとがげん気に大きくなれるように、二人とも一生けんめいがんばっています。いもうとは、くびがしつかりとするようになって、ねがえりができるようになって、まい日大きくなっています。いまでは「マンマ、パツパツ、バーバ。」とかおしやべりするようになりました。ママやパパやばあばのことかなとおもいます。いもうとのことがかわいくて、見ているだけでみんながえがおになります。わたしもきつとこんなふうに大きくなってきたんだとおもいます。

いまのわたしは一年生。じぶんでいろいろなことができるようになりまし

た。ごはんも一人でたべられるし、文字をよんだりかいたりすることもできます。けいさんもとくいだし、お手つだいもがんばっています。これからもできることをふやして、いのちのキラキラをふやしていきたいです。おとうさんやおかあさんがまもってくれたいのちを、じぶんでもキラキラさせることができるように、いろいろなことにちようせんしていきたいです。